

アリとカメのように

高校説明会やオープンキャンパスがいよいよ本格的になってきました。今年度は夏の高校一日体験入学が中止になったので、進路情報を得るために、これらの機会が数少ないチャンスとなります。

昨日は、土岐商業高校、恵那農業高校を見学してきた生徒が報告にきました。一人ずつ感想や学んだことを語らせました。やはり、見学に行っただけではあります。一人一人目を付けたところは違っていても、「高校生ならでは」の学び方や学習内容、態度や礼儀などの違いを目の当たりにし、心を揺さぶられたようです。

中でも、恵那農業高校に見学に行った生徒から「『花にも顔がある』という高校生の言葉が印象に残りました」という報告があったことには感動しました。「おもしろかった」「びっくりした」というような大雑把（おおざっぱ）な感想ではなく、花づくりに取り組む高校生たちの姿勢が端的に表れている言葉に心を止めたことがすばらしいと思いました。これは実際に高校に足を運び、高校生に接したからこそ得られた経験です。話を聞くだけ、パンフレットを見るだけでは決して得ることはできないことです。

土岐商業高校を見学してきた生徒からも、鋭い視点の報告を受けました。専門的な学習に取り組む姿勢、礼儀正しい日常のあいさつ、自分を磨き上げるために真剣に取り組む部活動など、どれも社会ですぐに通用することを目指した土岐商業高校のセールスポイントだと言えるでしょう。

そんな中で、「高校の学習は、中学校の学習がもとになっていることがわかりました。」と報告した生徒がいました。当たり前のことですが、普段それを実感することはありません。今回の高校見学でそれに気付けたことは、進路を深く考える上でとても大切な第一歩だと思います。

今の皆さんは「合格」の二文字を目指して勉強に取り組んでいることでしょう。しかし、それはあくまで通過点。通過点のために勉強するのではなく、もっともっと先にあるもののために勉強を積み重ねるという意識がこれからは必要です。高校見学会を通して、それを改めて感じられたことは、大変意味あることだったと思います。

イソップ寓話の中にある「アリとキリギリス」「ウサギとカメ」、この中のキリギリスとウサギは、通過点だけが見えていただけです。生徒の皆さんには、アリとカメのように先を見通してこつこつと努力できるようになってほしいと願っています。

（十月十四日 記）